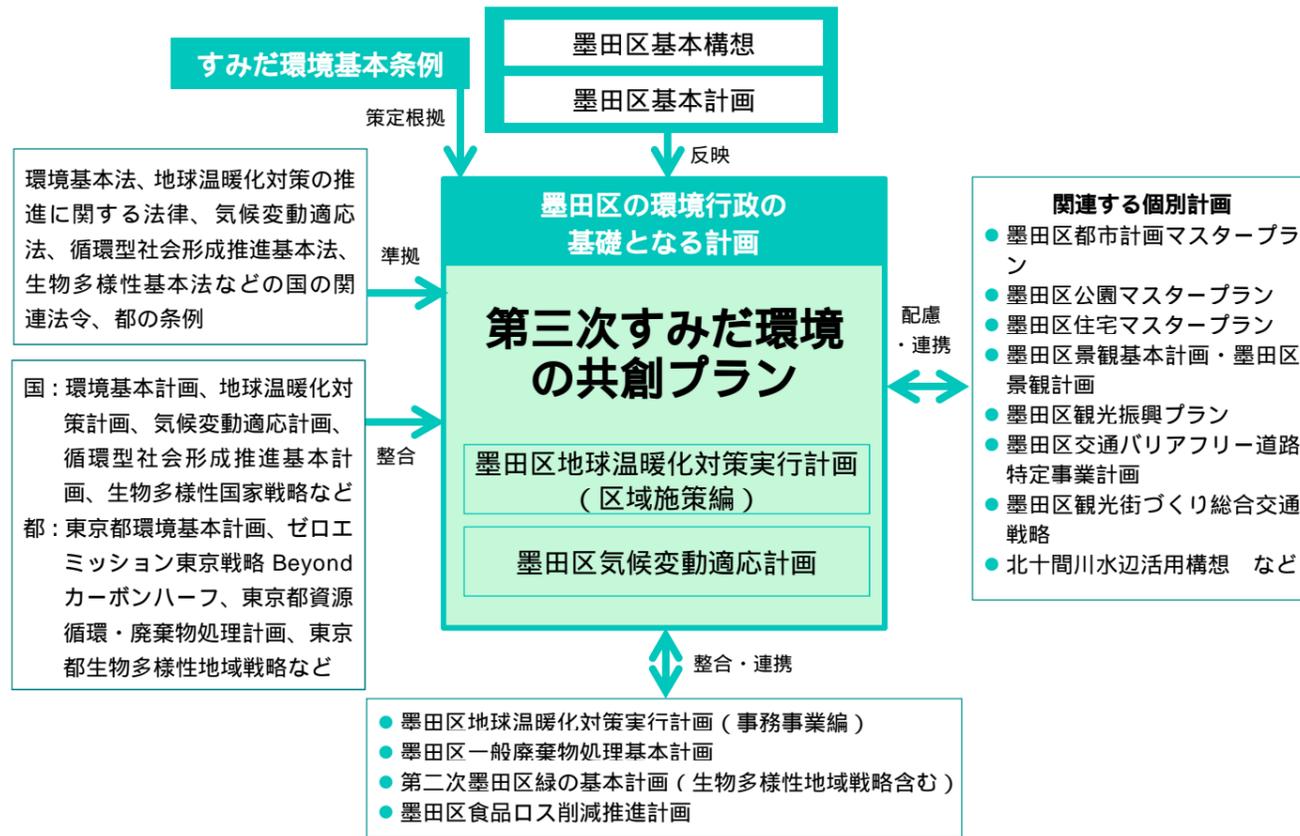


第三次すみだ環境の共創プラン策定に係る基本的な考え方について（案）

1 計画の基本的事項

【位置付け】

- ・すみだ環境基本条例第 7 条に基づき策定するもので、同条例第 3 条に掲げられた基本理念を実現するため、環境に関する長期目標と施策の方向を示し、区民、事業者、区のそれぞれが担うべき取組を明示するもの。
- ・区の最上位計画である「墨田区基本構想」「墨田区基本計画」に掲げる将来像を環境面から実現するための、墨田区の環境行政の基礎となる計画。



【計画期間、目標年次】

- ・令和 8（2026）年度から令和 17（2035）年度までの 10 年間とする。
- ・なお、社会状況の変化等に応じ、概ね 5 年を目途に中間見直しを行う。

【策定にあたっての前提条件】

- ・国や都が示す新たな気候変動対策や資源循環対策などの政策への対応、社会環境の変化に対応した計画とする。
- ・現行計画の進捗状況を評価し、継続すべき施策・事業は引き続き継続し、見直し・改善が必要な施策・事業については再検討する。
- ・「すみだゼロカーボンシティ 2050 宣言」の実現に向けた取組の方向性を示すロードマップを策定し、本計画内に明記する。

2 主な社会状況の変化

	環境全般	気候変動	資源循環	生物多様性
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・人類の活動が地球の環境収容力（プラネタリー・バウンダリー）を超過。 ・気候変動、生物多様性の損失、汚染の「3 つの危機」に直面。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の年平均気温が 2 年連続で観測史上 1 位を更新。 ・今後、気温上昇による熱中症リスクの増加、土砂災害や渇水等のリスクの増加、台風強度の増大等の予測。食糧危機も懸念。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックごみが与える海の生態系への影響が世界的な問題。 ・2022 年度の食品ロスは 472 万トン、食品ロスによる経済損失の合計は 4.0 兆円（1 人 1 日 88 円） 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の森林は 2000 年から 2010 年の間に、年平均 520 万 ha（九州と四国を足した面積程度）消失。 ・人間活動による影響で、地球上の種の絶滅のスピードは自然状態の約 1,000 倍に加速。
国の施策	<p>21 世紀末の予測</p> <p>東京都の年平均気温は、20 世紀末と比べて、 2℃上昇シナリオで約 1.4℃、4℃上昇シナリオで約 4.3℃上昇</p> <p>年間猛暑日数 2日 → 約8日 / 約30日 年間熱帯夜数 7日 → 約21日 / 約62日</p> <p>出典：東京都の気候変動（東京管区気象台）</p>	<p>第六次環境基本計画 2024（令和 6）年 4 月</p> <p>将来ビジョンである「循環共生型社会」を環境の質をあげることによって成長・発展できる文明と定義し、それにより将来にわたる「ウェルビーイング/高い生活の質」と「新たな成長」の実現を目指すことを明記。</p>	<p>2050 年カーボンニュートラル宣言（2020（令和 2）年）</p> <p>地球温暖化対策計画 2025（令和 7）年 2 月</p> <p>2050 年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルの実現に向けて、温室効果ガスの削減目標「2035 年度 60%削減」「2040 年度 73%削減」（いずれも 2013 年度比）を設定。</p>	<p>第五次循環型社会形成推進基本計画 2024（令和 6）年 8 月</p> <p>循環経済への移行を前面に打ち出し、地域ごとに循環システムを構築して地方創生を推進する等、社会課題の同時解決を図り、将来世代の未来につながる国家戦略として策定。</p>
東京都の施策	<p>東京都環境基本計画 2022（令和 4）年 9 月</p> <p>2050 年に向けた持続可能で安全・安心、快適な「未来を拓くグリーンでレジリエントな世界都市・東京」の実現を目指し、気候変動・エネルギー、自然、大気等の各分野の環境課題を包括的に解決する施策を総合的に展開。</p>	<p>ゼロエミッション東京戦略 Beyond カーボンハーフ 2025（令和 7）年 3 月</p> <p>2050 年ゼロエミッション東京の実現に向け、2030 年までに温室効果ガスを 50%削減（2000 年比）するカーボンハーフを見据え、2035 年までに温室効果ガス排出量を 60%以上削減する新たな目標を設定。</p>	<p>東京都資源循環・廃棄物処理計画 2021（令和 3）年 9 月</p> <p>カーボンハーフの表明などを踏まえ、資源ロスの更なる削減、廃棄物の循環の利用の更なる促進、健全で信頼される静脈ビジネスの発展などを明記。</p>	<p>生物多様性国家戦略 2023 - 2030 2023（令和 5）年 8 月</p> <p>2030 年の自然再興（ネイチャーポジティブ）の実現を目指し、生物多様性・自然資本（＝地球の持続可能性の土台・人間の安全保障の根幹）を守り活用するための戦略と行動計画を明示。</p>

3 第三次すみだ環境の共創プラン策定に向けた見直し課題

- ・現行計画の進捗状況について、環境事業指標や実施した事業の指標による定量的な評価に加え、昨今の社会的な動向等の定性的な評価を踏まえて、総合評価を実施。
- ・第三次すみだ環境の共創プランの策定にあたり主な見直し事項・検討課題を以下に整理。

基本目標	現行計画の進捗状況	見直し事項・検討課題
基本目標 1 脱炭素社会の実現に向けたまちづくりが進み、あらゆる人が行動するまち	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電システムや断熱改修等の助成等により、エネルギー消費量、温室効果ガス排出量は基準年度より削減できているが、目標達成のペースには至らず。 ・ZEB 認証を取得する等、公共施設の脱炭素化を図っているが、区の事務事業における温室効果ガスは近年増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再エネ導入の裾野拡大や中小事業者への支援強化等、更なる取組強化が必要。 ・公共施設においては、再エネ電力の調達や庁有車の ZEV 化等を全庁的で計画的に取り組むことが必要。 ・「すみだゼロカーボンシティ 2050 宣言」の実現に向けた 2035 年目標を設定。
基本目標 2 気候変動に適応し、安心して過ごせるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水ネットワーク全国大会を開催を通じ、区民へ雨水利用の普及啓発。 ・雨水貯留槽設置の助成・指導により、雨水総貯留容量は増加。 ・区民の水害時の避難行動の意識は向上したものの、目標達成には至らず。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来想定される気候変動の影響を踏まえたうえで、適応策を強化。 ・区民一人ひとりが自らの防災・適応行動をとれるよう働きかけを強化するとともに、インフラ整備と地域コミュニティの力を生かしたレジリエンスの向上が必要。
基本目標 3 水と緑が暮らしに寄り添うまち	<ul style="list-style-type: none"> ・緑と花のサポーター活動人数、緑と花の推進地域が増加し、「緑の豊かさ」に対する区民の満足度も向上。 ・自然観察会等のイベントを多数実施しているが、区民の「生物多様性」に関する認知度の向上は認められず。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広く区民に対して「生物多様性」への理解を促すための周知方法の工夫が必要。 ・「生物多様性増進活動促進法」など民有地の緑地等の確保のための法整備や制度が創設されることから、これらの活用も視野に入れた生物多様性保全の推進。
基本目標 4 省資源・循環型社会を実現するまち	<ul style="list-style-type: none"> ・区民 1 人 1 日あたりのごみ総量、区収集ごみ量ともに目標を上回る成果。 ・プラスチック資源回収を令和 6 年度から区内全域で開始。 ・食品ロス削減に向け、フードドライブの回収拠点を増やし、回収量増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き 2R によるごみ減量について啓発を推進するとともに、プラスチック資源の正しい分別等の更なる周知徹底が必要。 ・事業者による資源の自主回収ルートの確立や食品ロス対策、資源循環に付加価値を与えるビジネススタイルの転換等により、サーキュラーエコノミーへの移行が必要。
基本目標 5 良好な生活環境が確保され、健康でやすらぎが実感できるすみよいまち	<ul style="list-style-type: none"> ・大気・水質の環境基準については、概ね環境基準を達成できており、公害苦情も減少。 ・「騒音・振動」についての区民満足度は低下。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き公害対策として事業者への規制・指導等を実施。 ・良好な景観形成の徹底やごみのポイ捨て防止や路上喫煙防止対策等、住環境の質の向上が必要。
基本目標 6 環境活動を実践する人が育つまち	<ul style="list-style-type: none"> ・環境フェアをはじめとするイベントや様々な講座等、区民の学びと実践の場を提供。 ・環境活動の担い手となる環境ボランティアの登録者はほぼ横ばいで、目標達成には至らず。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育や各種イベント等を通じ、ナッジ等の手法も取り入れながら若年層や転入者も含めた幅広い層への働きかけを強化。 ・環境情報の発信とともに受信するしくみを整備し、参加しやすいプログラムの工夫や地域コミュニティ主体の活動支援を充実させることが必要。
共通事項		<ul style="list-style-type: none"> ・国の第六次環境基本計画に合わせて基本目標を再編成。 ・新しく策定される墨田区基本構想・墨田区基本計画を踏まえ、新たな将来像を設定。 ・進捗管理がしやすい指標を設定。

4 第三次すみだ環境の共創プランの目指す将来像

- ・新たに策定される墨田区基本構想において、環境分野の基本目標である「日常に心地よさを感じられるまち」を踏まえ、2035 年の本プランが目指す「すみだ」の将来像を新たに設定。

第二次すみだ環境の共創プラン（中間改定）

第三次すみだ環境の共創プラン（案）

【望ましい環境像】

みんなで作る環境にやさしい
持続可能な「すみだ」

【望ましい環境像】

一人ひとりが未来を創る
ゼロカーボンシティすみだ

5 第三次すみだ環境の共創プランの構成（案）

- ・国の第六次環境基本計画の重点的施策を参考に、指標の重複を避け、進行管理のしやすさの観点から現行計画の 6 つの基本目標を 5 つに再編し、以下の構成とする。
- ・目標への達成状況を毎年度評価することができる指標を設定する。

